

科目名称	母性看護学方法論Ⅱ (周産期にある母子と家族への看護)	学年学期	単位数	時間数
		2 学年後期	1	30
担当教員	松嶋 佐恵	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (助産師) <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

分娩期・産褥期にある母性と新生児の特徴について理解し、その看護ができる基礎的知識・技術を習得する。

【2】 学習目標

1. 分娩期・産褥期にある母性の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
2. 分娩期が正常に経過し、産婦が安楽で主体的なお産ができるための分娩期の看護について説明できる。
3. 産褥期が正常に経過し、産婦が母親役割を獲得できるための産褥期の看護について説明できる。
4. ハイリスク因子を持つ母児に対する看護実践に必要な基礎的知識について説明できる。
5. 新生児が子宮外生活に適応できるための看護について説明できる。
6. 新生児看護に必要な基礎的看護技術を、安全と愛護を意識して行うことができる。
7. 分娩期・産褥期・新生児期の看護過程を展開し、対象に必要な看護を計画できる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	分娩期における看護	講義
2	分娩期における看護の実際	講義
3	分娩期の異常と看護	講義
4	分娩期の看護過程	講義・グループワーク
5	産褥期における看護	講義
6	産褥期における看護の実際	講義
7	産褥期の異常と看護	講義
8	産褥期の看護過程	講義・グループワーク
9	新生児期における看護	講義
10	新生児の異常と看護	講義
11	新生児の看護過程	講義・グループワーク
12	新生児の看護の実際	演習
13	県立中央病院での母乳育児支援	講義
14	県立中央病院での周産期管理	講義
15	筆記試験・まとめ	

【5】 評価方法

科目評価は、筆記試験(80%)、授業・演習態度・提出物(20%)などで総合的に評価する。

【6】 教科書

森恵美: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 (第15版) 医学書院 2026 (電子版)

【7】 参考書

- 1) 佐世正勝他編集: ウエルネスからみた母性看護過程, 第4版, 医学書院, 2021
- 2) 石村由利子: 根拠と事故防止からみた母性看護技術, 第4版, 医学書院, 2026

【8】 受講生へのメッセージ